

「ユースと共に拓く大学女性協会の未来」事後アンケート結果

本部主催行事について、事後アンケートへの回答者は11名でした。以下に、回答内容の概要を紹介します。

1. 本日の登壇者の発表を聴いて感じたこと

- *とてもわかりやすく、また、要領よく説明していただき、活動状況が良く理解できました。ご指摘の内容には、うなずかされる内容が多々ありました。
- *冒頭の問題提起でポイントが明らかになってよかった。宮下さんのスライドをつかってのプレゼンはすばらしかった。京都支部長の久保さんの話からは「シニア」が「若手」を支援したいという気持ちを感じられた。具体的提案がいろいろと参考になった。
- *ユースにしてもシニアにしてもお互いに関わることの難しさを気にしすぎてきた。しかし、お互いに話し合ってみると分かり合えるものだ若い登壇者から伝えられた。育った時代や環境や今置かれた立場が違うので、対等に話し合えないこともある。同じ年代同志のグループ活動も必要だと感じた。
- *新たな取り組みが進んでいること、若い世代が積極的に取り組んでくれていること、とても心強く感じ、明るい気持ちになりました。
- *意欲的な姿勢に感動しました。とても頼もしく、ユースはユースの感性やことばがあり、説得力もありました。今後は楽しみです。
組織の拡大には核になるユースの存在が欠かせないと感じたところです。
- *この話し合いへの導入部分は画像が丁寧で色もきれいで見やすく、これからの楽しいお話になりそうだという期待ができた。片岡雅子さんの発表は、東京支部もアンケートの配布には協力できたので、経過に興味を持った。若い人はこうだからと決め込んではいけない、「ここは何を言っても大丈夫、受け止めてあげたい」の発言に共感した。そして完全にできなくても、何でも参加してみることが大事だと感じた。宮下さんが準備の打ち合わせで、「心を傷つけないよう先輩の気持ちを汲んで話したい」と言ったら、「そんなことはない、好きなように」と励まされたこと仰ってました。これから若い方の意見も聞いて、活動をつないでいけたらと思った。
- *大変分かりやすい発表で良かった。
ユースをどうして英語からのカタカナにしているのか？若者という立派な日本語があるのに…。ユースでないといけない理由を知りたい。
(主催者回答：趣旨説明でも触れたように、「ユース」を「自分より若い次世代」というイメージでとらえて使用しています。「若者」という言葉は、おおむね、10代から30歳未満が連想されるので、ここではそれより幅広くとらえていることから、ユースを使用しています。)

2. 今後の大学女性協会の活動について考えたこと

- *「次世代につなぐ会」の活動をすすめていくことの意義は大きく、ご無理がいかないように注意しながら、とにかく続けていくことが、一番大事な気がします。

- * JAUW の将来について考えるという意味で、「次世代につなぐ会」と「5年後の JAUW について考える」(中村さん他2名)のご提案は、統合したらいいのではないかと思います。
- * 旧態のままではなく、新しい大学女性協会になる必要あり。AI を自由に使ってつながろうとしている若者に対して、応える必要あり。そして、面白い学びと新しい活動スタイルにするチャンスを作ってあげる。
- * 活動をすることが学びに結びつくとともに活動への意欲がわく、仲間意識も芽生える。支部の人数が少なくなった今、インターネットを使って本部のテーマや支部のテーマを共有して活動する。そうした中で、支部を超えての仲間を作っていくことで会から離れる人をとどめる一助になればとも思う。
- * 意欲のある人をしっかり応援できる組織になるといいなと思いました。
支部に属さない会員(支部が無い県に住む人など)は、呼び込めないのかな。
- * 会員と非会員を問わず、共にいろいろな活動をするのが会員拡大につながるということに気付いた。
- * 今後の活動の難しさが身にしみます。
- * 今の理事会組織は入り組んでいてとても分かりにくいです。もう少し組織を簡略化できないものかと思いました。それと、お任せしたらあまり細かいことで文句を言わないこと、やる気をなくしてしまいます。

3. 大学女性協会のことを全く知らない方に「大学女性協会って何をしているの?」と聞かれたとき、その活動を端的に紹介するために貴女ならどのようにお答えになりますか?

- * 設立以来の経緯に簡単に触れたうえで、奨学事業、GWI 加盟団体としての活動等を行っている団体で、会員内の交流活動も行われている。(正しく理解できているか自信はありませんが。)
- * 奨励金(奨学金という表現は誤解を招く)を支給、国際機関を通して人権について提言するなどの活動を永年している大学卒業した女性団体
- * 女性の高等教育を目し、女性の社会参加を可にできることを訴える。
- * ジェンダーギャップを解消し、みんなが平等に活躍できる社会を構築する一助になる活動をする。若く優秀で意欲のある女性がさらに活躍できるように奨学金を授与したり、環境づくりに協力する。世界の動きに目を向け、私たちの力を必要とする人々への協力をする。
- * 男女共同参画と国際協力を柱に各支部単位で独自の活動をするほか、奨学金制度で女性研究者を応援している団体です。
- * 女性の権利、地位を高めるための支援をしている。
女性が輝いて生きていくことが出来る社会を作ること。
- * 「女性が自覚的により自己研さんを重ねようとする団体」と先ず言った上で、その先の究極の目的は「国際平和の実現である」と伝えたい。
- * 男女共同参画社会の推進や世界平和のために、世界の同士と連携をし、女性リーダーの育成や日常課題の調査研究・啓発・提言などの活動を行っている。

*自分たちの会費や寄付で、将来リーダーとなっただけの優秀な学生さんに奨学金、支援金を贈呈したり、また、セミナーや講演会など発言の場を提供したりして、同時に自分たちも学び、歳をとっても何か学べる楽しい活動をしています（とお話しています）。

4. その他の感想など

- *Zoomを含めたインターネットを活用した方法についていけない趣旨の発言がありましたが、若い方を対象として考えた時に、合理的な活動方式を選んでいかれるのがよいと感じました。私は見守る立場と自覚しておりますが、コンピュータがらみの内容でしたら、お役に立てることもあるかもしれません。
- *会員活動について出来るだけ参加してもらうようお互いに努力する。やりたくない人、やれない人には無理強いはしないが、出来るだけ多くの人と仕事を分担しあい交流を深めたい。配慮は必要であるが、遠慮しすぎず仲間として一緒に活動していきたいと思う。
- *若い人たちの柔軟な考え方に感動した。そして、彼女たちの意見を汲みあげ、私たちも既成概念にとらわれない生き方、活動の仕方をしなければならない。そして、広い視野をもつこと。
- *入会したら、何かの委員会に入って、出来る範囲でいいので活動してほしいと願っています。会費会員でいるのはもったいないです。色々なことが学べますし、よいお仲間ができますし、自分の思わぬ面も発揮できて楽しいと思います。
- *本部委員会方針を立てる前に永年正会員年会費を収めている人への聞く耳を求めます。
- *会場から、今回の発表とは関係のない会費等についての意見が出て、さらに発表者に攻撃的であったのが、すごく残念で悲しかったです。もっと余裕をもって、新しい人や考えなどを受け入れられる団体にならないといけないのでは、と感じました。